大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO

大阪湾に浮かぶ水の島・大正区
～沖縄心に風が吹くまち～

区民のおよそ4分の1が沖縄県出身者というリトル沖縄・大正区。路地を歩けば門構えに魔除けのシーサーが設置されていたり、庭にゴーヤーが植えてあったり、三線（サンシン）の音が聞こえてきたり、と南国情緒に満ち溢れたまちを歩きます。大阪に息づいている沖縄文化を堪能してください。

① 大正区コミュニティーセンターと昭和山

大正区コミュニティーセンター1階ロビーには「大正区立体地図」があり、大正区が「島」であることが実感できます。また2階にはガイドマップをはじめ、大正区の詳しい情報を得ることができ、噴水広場南側の「江戸時代の大正区の風景」（パネル）を見ると、多くの船が行きかう海の入口だったことがよくわかります。17世紀から19世紀にかけて琉球王国の一行は、木津川口から川船に乗り換え、京に向ったといいます。地下鉄工事の残土など約170万立方メートル（ダンプカー50万台）の土砂で造られた昭和山（標高33メートル）頂上からは六甲、葛城、金剛の山並みが一望できます。

② ソテツと出稼ぎ

第1次大戦後、日本は深刻な不況に陥りました。沖縄でも砂糖価格が暴落して大打撃を受け、毒を含むソテツの実や幹を食べて飢えをしのぐ有り様でした（「美味しかった」と語るおばあさんもいます）。生きる術をもとめて多くのウチナーンチュが阪神間の製紙・紡績などの工業労働者となり、生活を切り詰めて沖縄に送金を続けました。いまでも古老たちは昭和山のソテツを見ると、複雑な想いを抱くそうですが、それでも心が沖縄に帰っていくといいます。

③ 具志堅幸司顕彰碑

具志堅幸司は大正区出身のオリンピック・ロサンゼルス大会体操競技金メダリストで、顕彰碑は沖縄出身者によって建立されました。沖縄では皇民化教育が進むと、生活風俗をヤマト風に改めようとする動きが激しくなり、名前も日本式に変えるようになりました。「朝鮮人・琉球人お断り」という張り紙が出されて、仕事に就けず、アパートにも入れなかったウチナーンチュが、なんとか生きのびるための手段だったといえます。

④ でいごとウチナーンチュ

出稼ぎでやって来た多くのウチナーンチュは、なかなか生まれ島・沖縄に帰ることができませんでした。「帰りたくとも帰れない」と沖縄への想いはつのりふくらみ、多くの歌が大阪で生まれます。太平マルフクレコードを作った譜久原朝喜はその代表的人物のひとりで、沖縄を音にしてウチナーンチュの心に届けました。1世紀が過ぎ、大阪は第2のふるさととなりました。生きている間に混ざることはなかった思いも、いま長い年月を経て、静かに土の中で混ざり合っていきます。毎年夏になると10本のでいごの花が片隅でうたうように咲きはじめます。

⑤ 落合上と下渡船場

大阪市内には8ヶ所の渡船場があり、そのうちの7か所が大正区にあります。渡し船は江戸時代から始まっていますが、いまも大切な役割をはたしています。※渡船場はその他に千歳・甚兵衛・船町・千本松・木津川とあります。（利用者数：1日約5800人）。

⑥ 日本の近代化と紡績

西成高校および西成公園は、元は大日本紡績の木津川工場があったところです。日本近代の工業化は紡績産業の発展から始まりました。その中心を担ったのが明治16年（1882）に大正区三軒家村に出来た大阪紡績の三軒家工場です。昭和4年（1929）には大阪港からの綿製品の輸出額が、イギリスを押さえて世界第1位となり、大阪は「東洋のマンチェスター」とまで呼ばれるようになります。大阪紡績は他社と合併して世界最大の紡績会社に発展しましたが、しかし、戦争の激化とともに三軒家工場は軍需工場に転換させられ，昭和20年3月の大阪大空襲で無塵と化しました。

⑦ 平尾商店街とその周辺

沖縄物産店が見られる商店街として有名です。店先には沖縄の伝説の獣シーサーがいたり、精肉店には沖縄料理に欠かせない豚の「てぃぴち」（足）「中身」（内蔵）などが当然のように置かれています。沖縄物産店以外の店にも、沖縄関連の商品が見受けられて、地域住民の生活と沖縄文化が密着しているのがよくわかります。また商店街周辺を歩くと「沖縄そば」という文字がとび込んできますが、食事をしながら沖縄民謡をライブで聞けるといった店も増えています。琉球舞踊の稽古場、三線教室、琉球空手道場などがあり、大阪の地元の生徒も増加しています。

TOPICS　大正区と大正橋

「大正区」（1932年に港区から分区されて発足）のネーミングは大正橋が由来です。歩道にはメトロノームとピアノ鍵盤が刻まれて、橋の欄干はベートーベン作曲の交響曲第9番「歓びの歌」がデザインされていますが、これは大正3年（1914）に第1次大戦下のドイツ兵捕虜収容所が設置されたことに因んで、大正ドイツ友好祈念の意味が込められています。ドイツ捕虜兵はのちに開放されますが、その中には神戸のバウムクーヘン製造で有名なカール・ユーハイム氏がいます。この大正橋から眺めると大正区が川に挟まれた「島」ということがよくわかります。

TOPICS　大阪沖縄会館

1974年にできた4階建ての建物で、沖縄県人会の本部事務所をはじめ、琉球舞踊、沖縄民謡三線教室、旅行社などが入っています（千鳥3-19-3 TEL:6554-2709）。
4階にある大ホールは沖縄出身者の集いの場として機能しています。
※この他に平尾には大正沖縄会館（平尾5-1-19）があります。

TOPICS　関西沖縄文庫（港）

沖縄関係の書籍やCDなど約7000点を所蔵しています。おきなわぶらり散歩マップを作成し、10年ほど前から大正区沖縄フィールドワークを実施しています。沖縄とヤマトが交差し行きかう、時間をこえた「港」です。
（小林東3-13-20TEL6552-6709）

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2km、2時間程度を基準として作成されています。